

梵珠だより

第115号

青森県立自然ふれあいセンター機関誌

オオルリ

発行／青森県立自然ふれあいセンター 〒038-1301 青森県青森市浪岡大字大釈迦字沢内沢1-1
 TEL 0172-62-4527 FAX 0172-62-8510 URL <http://www.jomon.ne.jp/~bonjyu/> メールアドレス bonjyu@jomon.ne.jp

□ 行事レポート □

● 新春梵珠山登山 1月10日(日)



登り始めは梵珠山から！前日に積もった新雪をラッセルして山頂を目指しました。

● 少年自然探検隊(冬) 1月24日(日)



今回の探検隊は雪遊びに重点を置き、イグルー作りを行いました。

● 梵珠山雪下ろしツアー 2月7日(日)

今年は積もった雪が厚く大変でしたが、参加者の御協力により無事終わることができました。



● コンパスと地図で歩く梵珠山 2月14日(日)

座学と実地での講習を行い、コンパスと地図の正しい使い方を学びました。

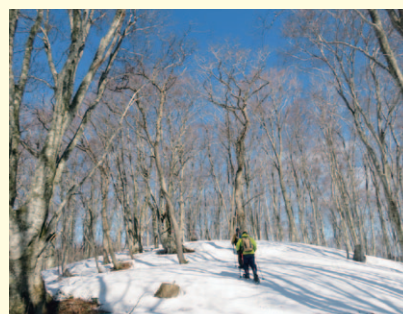


● 梵珠山アニマルウォッチング 3月7日(日)



旧林道コースと南尾根コースの二手に分かれ、アニマルトラッキングを行いました。

● 硬雪トレッキング 3月14日(日)



当日の天候条件が悪く、雪崩の危険性があった為残念ながら中止となりました。

● ヤマソテツ

齋藤 信夫 (青森自然誌研究会)

ヤマソテツはシダ植物である。一般にはあまり知られていないような気がする植物のひとつだ。シダ植物に限らず私達が知っている、あるいは身近に感じる植物というのは、どうしても「食」や「遊び」や「儀式」などに関連することが多い。それらの範疇に入らない植物は、その他十把一絡げである。ただ、そんな扱いも地方により差があり、同じ植物でも所が変われば食用となったり非食用となったりする。実際、ヤマソテツの芽立ちは地方によっては山菜として扱われ、粘りがあって美味だというが、私は食べたことがないし、少なくとも青森では山菜としては店頭に並ばない。そのことが私には不思議でならない。いつの時代にか、先人たちは、山菜としてのヤマソテツを捨て去ったのかも知れない。可能性のある一つの考えとして、流通させるための量の確保が難しかったのかもと思ってしまう。

ヤマソテツはヒバ林やブナ林、また、アオモリトドマツ林などの下草として生えていることが多く、生えている場所の土壌の湿り気はほどほどか、やや乾き気味である。また、開放的な明るい林よりも、やや暗めの林に多いような気がする。私が初めてヤマソテツに遇ったときは、姿形が特徴的で不思議なシダ植物だと思った記憶がある。それは、代表的なシダ植物であるワラビとは違って、全体が濃緑色でやや照

りがあり、クシのように切れ込んだ長めの葉(栄養葉: 光合成をする葉)が放射状に外側へ向かって広がり、栄養葉の中心から太めの針金細工かなと思えるような、ひょろっとした葉(胞子葉: 胞子をつける葉)が数本立ち上がっている姿を目にしたからだ。要するにこのシダ植物は栄養葉と胞子葉というまったく違う形をした二種類の葉を私たちに見せつけるのである。山菜として食卓に上がるゼンマイも二種類の葉を持つが、ヤマソテツの方が硬派の印象がある。

ヤマソテツは梵珠山の登山道沿いではそれほど多く目にするのではないが、広範囲に分布していることは確かである。

春先、雪が消えた林床では多くの植物が一斉に活動を再開する。そんな中であって、ヤマソテツは冬越しをした昨年の葉が放射状に地面にへばりついていていることが多く、葉の根元には新しい葉が顔をのぞかせている。6月上旬になると、まず、栄養葉が先に葉を広げ、少し遅れて孢子葉が伸びだす。孢子葉はくねくねしながらゼンマイ仕掛けをほどき、ある程度ほどけたときはミニチュアのあばら骨が立っているように見えることさえある。そのうち秋になり10月、孢子を飛ばし終えた孢子葉は勢いを失い、からからに乾いたような雰囲気を漂わせ、そのうち枯れ落ちてしまうのだ。



ヤマソテツ(2018年6月4日)
中央に立つのが胞子葉 斜めに伸びるのが今年の栄養葉



ヤマソテツの胞子葉(2016年9月15日)
胞子は熟している

生物こよみ (昨年)					4月			☀️🌧️☁️: 昨年の天気			℃: 昨年の気温 (月最高気温)			低: 昨年の気温 (月最低気温)																	
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
観察できたもの	アラゲヒョウタンボク花	ホンドタヌキ	ミスバシヨウ花・カタクリ花	ニホンカモシカ	マルハマンサク花・シュンラン花	マヒワ群れ	カヤヅタリ・スギタニルシシミ	ミスバシヨウ花	ベニマシコ・ヒガラ	ホオジロ・ツノハシバミ花	オオバキスミレ花	ルリビタキ	ミソサザイ	ニホンカモシカ	キクイタダキ	ノスリ・ベニマシコ	トラツグミ	ミソサザイ・カケス	コゲラ・ヤマガラ	キセキレイ・コガラ	シジュウカラ・ヒガラ	カケス	アオゲラ・アオジ	キクイタダキ	コゲラ・キセキレイ	アオジ・ウグイス	クマタカ・アカハラ・シロハラ	カルガモ・トラツグミ	コマドリ・カシラダカ	ヤブサメ・ルリタテハ	
	天	☂️	☂️	☀️	☀️	☂️	☁️	☀️	☀️	☂️	☂️	☀️	☁️	☁️	☀️	☂️	☀️	☀️	☁️	☁️	☁️	☂️	☂️	☁️	☀️	☂️	☂️	☀️	☀️	☁️	
	℃	10	9	13	19	8	5	13	13	6	8	11	5	8	11	8	10	14	14	12	11	14	8	7	10	13	11	10	12	14	18
	低	3	1	-1	0	1	0	1	1	1	1	-1	2	0	0	0	-1	-2	2	6	6	4	2	2	0	2	5	1	0	2	3
	高	16	14	16	19	16	13	16	16	13	16	19	16	18	16	17	19	21	21	19	18	17	15	14	16	19	17	16	18	20	22

●梵珠の昆虫「ミヤマカラスアゲハ」(アゲハチョウ科) 鳴海 富美子(津軽昆虫同好会)

漢字で表すと「深山烏揚羽」で、深山にいるカラスアゲハという意味であり、アゲハは止まっている時に翅を上には上げているところから名づけられたということである。「カラス」というと真黒な羽を思いうかべるが、実際には青緑色に輝くとてもきれいなチョウである。飛んでいる姿はただ黒くて大きなチョウというようにしか見えないが、良く見ると金属緑色を帯び、赤や青等の色が混じった美しいチョウである。

カラスアゲハとミヤマカラスアゲハはとても良く似ているが、カラスアゲハは前翅裏面の白い帯が逆三角形に広がっているのに対して、ミヤマカラスアゲハの方は白い帯が直線になっていることで区別すればよいと思う。

年 2 回の発生で蛹で越冬し、春型は夏型に比べると小さいが色彩はきれいである。

山地性で溪流沿いの道等でよく見られ、時には水たまりで何頭も並んで吸水してい

る所に会うこともある。また、花にも吸蜜に来る。以前クサギの花に数頭が群れて翅をばたつかせながら吸蜜していたところに出会い、しばらく座って見ていたこともある。

山頂にやってくることもあり、蝶道といってそのチョウの通り道があり、同じ場所から現れては同じ場所に消えていくのだが、途中で待ち構えていても飛び方が素早くてなかなかネットに入ってくれない。

梵珠では 6 月上旬から 8 月下旬頃まで多く見ているが、実際にはもっといるのだと思う。高く素早く飛ぶのでどちらかわからない方が多いが、ネットに入ったものはカラスアゲハの方が多いようだ。時々運が良いとタニウツギの花等の観察しやすい場所で吸蜜してくれていたりするが、なかなかそういう場面には出会えないでいる。

子供達がオニヤンマを採って喜ぶように、私はミヤマカラスアゲハを採るとうれしい。食餌植物はミカン科のキハダ等である。



ミヤマカラスアゲハ 1



ミヤマカラスアゲハ 2

生物こよみ(昨年)									5月		☀☁☔: 昨年の天気			℃: 昨年の気温 (月最高気温)		低: 昨年の気温 (月最低気温)															
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
観察できたもの	アナグマ	シラネアオイ花・コツバメ	ヒヨウノセンカタバミ花	オオルリ・ムラサキヤシオ花	ミヤマキケマン花・キセキレイ	サンカヨウ花	ヤマツツジ花・チゴユリ花	ムラサキヤシオ花	アナグマ・アオダイショウ	ルリタテハ	オオルリ	ウグイス・アズマヒキガエル	ヤマツツジ花	クルマバソウ花	キバナイカリソウ花	エノハルゼミ・スミレサイシン花	オオバキスミレ花	オオルリ・マヒワ群れ	ニホンカモシカ	カケス・ニリンソウ花	ホンドリタヌキ・キブシ花	ニホンザル	ヒメクロサエ・サカハチチョウ	ベニシジミ・クロアゲハ	オオカメノキ花・ツリバナソウ花	ホンドリタヌキ・アナグマ	カケス・カワガラス	カナヘビ	スナヤツメ	ギリヨウソウ花・フデリンドウ花	ニホンザル
	天	☁	☁	☀	☀	☀	☔	☀	☀	☁	☔	☀	☔	☀	☀	☁	☔	☁	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	
	℃	19	22	28	24	14	16	15	21	23	17	19	21	18	19	25	14	19	16	11	7	13	12	17	21	21	24	16	20	22	23
	低	7	11	14	11	5	4	7	5	7	12	12	9	8	5	8	11	11	9	6	6	6	8	10	8	12	11	9	8	10	8

●ツチグリ

湯口 竹幸（青森県きのこ会）

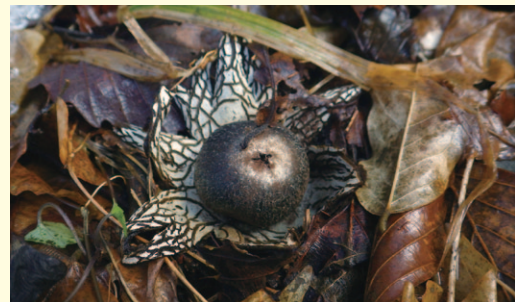
遊歩道脇の崖下や林内の裸地など、開けた攪乱地で雨が直接当たるような場所に多く発生する。ほぼ球形で大きさは3cm程、褐色～黒褐色の菌子実が表面にまといつき鬼皮を剥いたクリの実に似ている。成長と共に少しずつ地中から地上に現れ、成熟し雨を受けると外皮が6～10片の星形に開く。更に反り返り背伸びして少し高さを稼いで孢子飛散距離をのばそうとする。雨粒の落下エネルギーにより頂部に空いた穴から粉状の孢子塊を吹き出す。スッポンタケのように臭い匂いで昆虫等呼び寄せたり、ナメクジ等に食され運搬されるなど動物に頼らない。雨が上がり乾燥すると一日かけて外皮を閉じ丸く籠状となる。そして成熟が進み地面に固定していた短い根性菌糸束が切れ、風を受け、あるいは重力で転がり移動し更に孢子拡散する。物理的エネルギーだけを利用するところが個性的だ。この外皮の開閉は3層構造による。薄い内層は内皮からはがれた組織が白銀色に付きひび割れ模様となりよく目立つがやがて消え去る。中層は膠質で乾・湿により収縮・膨張するそのため閉じて・開く。外層は革質で伸縮しない。

学名は *Astraeus hygrometricus* 「星形の湿度計」、英語名も Barometer Earthstar 「星形の晴雨計」、転がることに対して「森の旅行者」という呼び

名もある。本菌も地方が多くが親しまれてきたもので、山歩きをしていれば見たことがあるきのこではないだろうか。本県では馴染みが薄いが、上北地方では「ポポタケ」と呼び、これは孢子を吹き出す様子を想像できる。秋田県北では「カッチクリ」「クリタマ」、岩手では「ツチカキ」「ツチモグリ」、南東北では「マメダンゴ」「ママダンゴ」、他ではブンブクチャガマ・ツチホウズキ・ヤマダンゴ等と呼ぶ。県外では食用対象として名付けられたものが多い。日本菌学会東北支部会の会報名も「つちぐり」で、南東北の会員発案によるものだろうか。丸い基本体の白い中身（グレバ）は成熟に伴って褐色化し、孢子化すると苦みのため食用とはならなくなるが、グレバが白いうちは独特の食感があり好まれるらしい。福島等では炊き込みご飯や佃煮、串に刺し焼いて食べるなど人気の郷土料理の一つであるが、場所によっては乱獲のため発生量が減少している。かつて幼菌を獲るために河川の土手を掘り問題となったこともあったらしい。東南アジアでは日常の食材として缶詰が販売されている。下処理不要だが、高温処理後なので食感は乏しいとか。まれに本菌に寄生するタマノリイグチが発生するが、県内ではまだ発見していない。本菌も所属が新分類体系ではニセシヨロ目からイグチ目へ変更された。



ツチグリ



ツチグリ冬

生物こよみ (昨年)					6 月					☀☁☔: 昨年の天気					℃: 昨年の気温 (月最高気温) 低: 昨年の気温 (月最低気温)															
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
観察できたもの	モリアオガエル・エゾイトトンボ	ギンラン花・タニウツギ花	ジンヨウイチヤクソウ花	クルマユリ花	ヒメクロサナエ	コケイトン花・オドリコソウ花	シオヤトトンボ・ニホンカワトンボ	ヤマガラ・ヤマボウシ花	アカショウビン	クロシギヤンマ・クロアゲハ	トラツグミ	オオアカゲラ・キビタキ	ウメガサソウ花	コゲラ	ツツドリ	アナグマ	ニホンザル・コマドリ	トラフシジミ・ガマズミ花	サイハイラン花・コケイラン花	アキグミ花	カケス・オニヤンマ	アナグマ	ツルシキミ花	ニホンカモシカ	アカショウビン	ノアザミ花	アオケラ・コゲラ・シジュウカラ	ヤマブキシノウマ花	キジバト・カワガラス	オオルリ・キビタキ
	天	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	
	℃	26	25	23	28	22	21	22	22	28	30	21	26	29	28	26	22	21	23	21	20	23	24	21	24	20	18	21	22	21
	低	11	14	12	12	14	13	11	13	14	13	16	13	13	14	15	13	13	13	15	13	12	13	15	14	15	16	16	16	15
	高	26	25	23	28	22	21	22	22	28	30	21	26	29	28	26	22	21	23	21	20	23	24	21	24	20	18	21	22	21